○プロジェクト研究　17537－3

研究課題「茨城県立医療大学の認知度及び魅力を向上させるウェブ広報の効果の検討」

○研究代表者　人間科学センター教授　佐藤　純
○研究分担者　人間科学センター准教授　萬代　望
（5名）　医科学センター准教授　角　友起
看護学科准教授　川野　道弘
理学療法学科准教授　滝澤　恵美
放射線技術科学科助教　中島修一

○研究年度　平成31年度
（研究期間）平成29年度～平成31年度（3年間）

1. 研究目的

本研究課題の目的は，次の2点である。①大学ウェブサイトのアクセスログを解析し，1年前のアクセス状況との変化を検討する。②茨城県立医療大学が茨城県内の住民にどのように認知されているかについて，2年前の認知度との変化を検討する。

本研究は3カ年計画であり，本年は最終年度に当たる。本学の認知度を高めるためのウェブ広報戦略を立案する際に有用な資料を得ることを目的としている。

2. 研究方法および研究結果

【研究1】大学ウェブサイトのアクセスログの比較

①目的　茨城県立医療大学の公式ウェブサイトのアクセスログについて，2019年度上半期と2018年上半期の結果を比較し，ウェブ広報活動の効果を検討するための資料とする。

②方法　解析対象：2019年4月1日～9月30日における本学公式ウェブサイトのアクセスログ

(1) 公式ウェブサイトの訪問者数（2018と2019の比較）

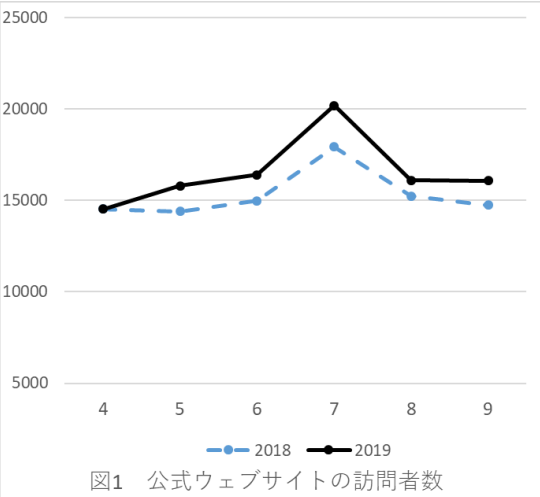

図1　公式ウェブサイトの訪問者数

(2)主なページの訪問者数（2018と2019の比較）

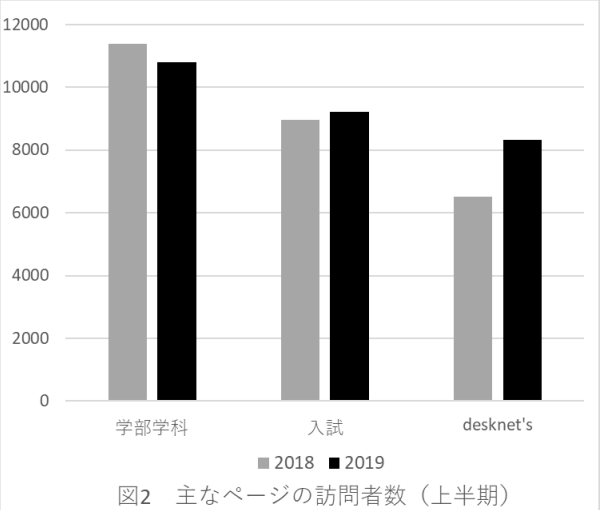

図2　主なページの訪問者数（上半期）

【研究2】 茨城県内在住成人における茨城県立医療大学の認知度調査

(1)研究方法

調査対象:茨城県民計2000名(県内5地域, 男性:1000名・女性:1000名, 20代:297名;30代:403名;40代:453名;50代:429名;60代:283名;70代:135名)が調査に参加した。

調査内容:①茨城県立医療大学に関する認知度:①存在認知, ②(知っていた人に対して)知ったきっかけ, ③医療専門職種の知識, ④本学で養成している医療専門職種, ⑤入試難易度のイメージ, ⑥学費のイメージ, ⑦茨城県立医療大学の【よいと思うところ】または【直したほうがよいところ】(自由記述)

手続き :ウェブ調査会社を利用して実施した。

(2)研究結果(抜粋)

まず, 調査対象全体における本学の認知度は34.6%であった。2年前に実施した調査では37.0%であり, 今回の調査対象においては認知度が微減していた。各年代における認知度について前回調査結果と合わせて記載したのが図3である。年代によって増減の傾向に違いが見られる。

一方, 茨城県内にある大学を思いついた順に5校まで記載を求め, 本学が記載された割合を示したのが図4である。先の項目が, 本学の存在を提示された上での認知度を問うたのに対し, この項目は, 茨城県内の大学として本学が自発的に想起された割合を問うている点で異なっている。結果を見ると, 値は低いものの前回調査結果と比較すると, 全ての年代で増加していることが明らかとなった。

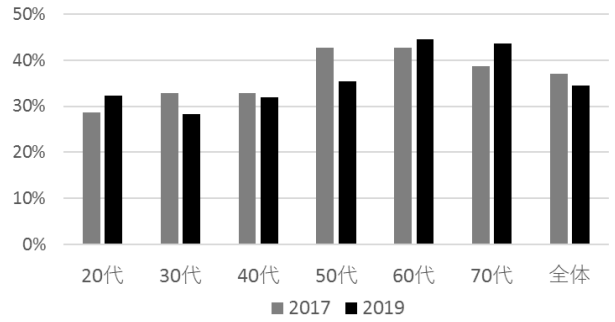

図3 本学の認知度(「知っていますか」)

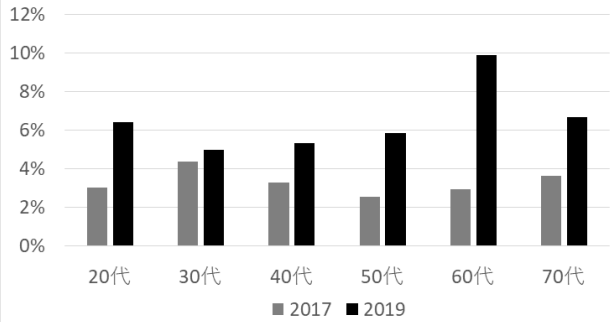

図4 本学の認知度(自発想起)

本学がどのような医療職種を養成しているかの認知ついて2年前の結果と比較すると, 看護師の認知度が増加した他は, ほぼ同様か微減という結果であった。

本学の認知度を高めるための広報を行う際に, どのような医療職を養成しているかに関する情報を含めることが必要であると考えられる。

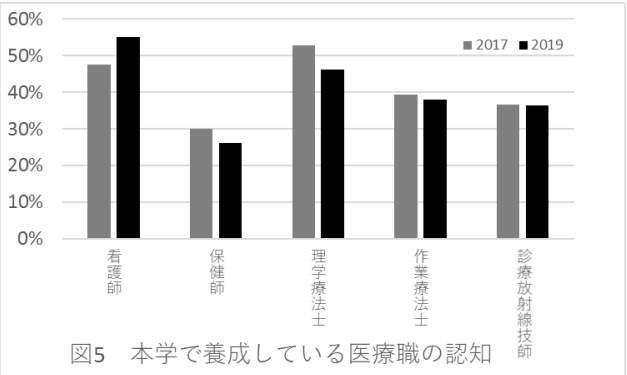

図5 本学で養成している医療職の認知

3. 考察(結論)

3カ年の研究を通して, 開学から25年を経ても本学の認知度が低いことが明らかとなった。ウェブサイトに記事を掲載するだけでは, その情報を求める人にしか情報が届くことはない。本学の広報においてはプッシュ型の情報発信が少ないため, SNS等を活用した広報も有効であると考えられる。事実, SNS広報を展開し始めた2019年6月から本学ウェブサイトへのアクセスが増加しており, その効果が推察される。SNSを利用した情報発信には, SNSの利用に慣れた学生との協働作業が有効であると考えられる。本学で今年度発足したSPAと協力しながら本学のSNSを利用した広報活動を展開していくことが本学の認知度向上に有効であろう。

4. 研究発表

佐藤純, 萬代望, 角友起, 中島修一, 塚本和己, 川野道宏, 滝澤恵美, 真田育依. 2017年度茨城県立医療大学認知度等調査報告. 茨金立医療大学紀要. 2018